

京都府におけるネギアザミウマの生殖系統の地理的分布および

薬剤殺虫効果

○徳丸 晋

京都府農林水産技術センター

ネギアザミウマ *Thrips tabaci* (Lindeman)は、ネギ、タマネギ (今井ら, 1988), カキ (森下・大植, 2001), カンキツ類 (土屋, 2001) など広範囲なグループにわたる野菜および果樹類を加害する (Childers, 1997). 近年, 京都府内のネギ産地では本種が多発し, 直接葉を加害するだけでなく, ネギえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリス黄斑ウイルス (IYSV) を媒介 (井上ら, 2010) して問題になっている. また, 本種には複数の生殖系統が存在し (Toda and Murai, 2007), 我が国では産雄性単為生殖系統 (以下, 産雄性と略記) と産雌性単為生殖系統 (以下, 産雌性と略記) の発生が確認されている. 本種の京都個体群の生殖系統および有効な薬剤については不明な点が多い. そこで, 府内 19 地点のネギなどの栽培ほ場から採集した本種の生殖系統の地理的分布について明らかにするとともに, 有効な薬剤を選定するために, インゲンマメ葉片浸漬法により, 府内 11 地点から採集した延べ 15 系統 (産雄性系統: 7, 産雌性系統: 8) の薬剤殺虫効果について調べた.

(1) 生殖系統の地理的分布

京都府内 19 地点のネギ, キャベツおよびタマネギほ場から採集したネギアザミウマの生殖系統を調べた結果, 16 地点で産雄性生殖系統を確認した. 山城地域では, 産雄性生殖系統が優占し, 中丹以北の地域では産雌性生殖系統のみ確認した. キャベツでは産雄性生殖系統のみ確認した.

(2) 生殖系統別の薬剤殺虫効果

産雄性単為生殖系統に対する処理 48 (シアントラニリプロール水和剤は 72 時間後で評価) 時間後の補正死虫率が概ね 80%以上となった薬剤は, スピノサド水和剤, スピネトラム水和剤, アバメクチン乳剤, シアントラニリプロール水和剤およびフルキサメタミド乳剤であった. 産雌性単為生殖系統に対する処理 48 (シアントラニリプロール水和剤は 72 時間後で評価) 時間後の補正死虫率が概ね 80%以上となった薬剤は, シペルメトリン乳剤, スピノサド水和剤, スピネトラム水和剤, アバメクチン乳剤, シアントラニリプロール水和剤およびフルキサメタミド乳剤であった.

産雄性単為生殖系統に対する殺虫剤の殺虫効果は, 産雌性単為生殖系統より低い傾向を示し, 両系統ともに殺虫効果は個体群により異なった.

Geographic Distribution and Effect of Insecticides on Reproductive Types of Onion Thrips, *Thrips tabaci* (Lindeman) in Kyoto Prefecture.

Susumu Tokumaru

Kyoto Prefectural Agriculture, Forestry and Fisheries Technology Center